

飯田市

ごろた 五郎田遺跡 現地説明会資料

令和6年(2024年)10月19日(土)

(一財)長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

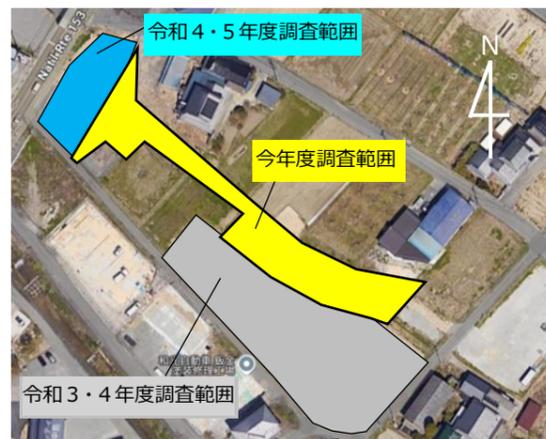
1. 調査の概要

長野県埋蔵文化財センターは、中央新幹線建設工事に伴い令和2年度から五郎田遺跡の発掘調査を実施しています。五郎田遺跡は土曾川左岸に立地する縄文時代～近世の土器散布地として知られていましたが、昨年度までの調査で弥生時代から奈良・平安時代にかけての大規模な集落跡であることがわかりました。

今年度の調査面積は約1600㎡あり、場所は令和3・4年度調査範囲の北側、令和4・5年度調査範囲の南東側に位置しています。令和3・4年度調査範囲では弥生時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡34軒、掘立柱建物跡5棟などが、令和4・5年度調査範囲では古墳時代から奈良・平安時代の竪穴建物跡19軒などがみつかっています。



五郎田遺跡発掘調査場所



今年度の調査範囲

所在地 飯田市座光寺4067ほか

立地 天竜川右岸、南東に傾斜する低位段丘面で、天竜川支流の土曾川左岸の微高地上
標高は約430m

調査面積 今年度：1,606㎡

(令和3年度：1,882㎡、令和4年度：1,805㎡、令和5年度：4,025㎡)

※確認調査範囲は除外

検出遺構及び出土遺物

10月現在、古墳時代中～後期及び奈良・平安時代の竪穴建物跡が21軒、掘立柱建物跡の柱穴等を含む土坑(穴の跡)が約50基、溝跡を1条検出しています。遺物は弥生時代中期後半～後期、古墳時代中～後期、奈良・平安時代の土器、弥生時代～古墳時代の石器、古墳時代後期の平玉などが出土しています。

2. 遺跡の立地

遺跡の南西側を土曾川、北東側を西の沢川が流れ、南東方向に緩やかに傾斜する地形です。遺跡の北東約800m先には、古代伊那郡の郡役所(伊那郡衙)と推定される国史跡の恒川官衙遺跡があるほか、土曾川の対岸には堂垣外遺跡が、国道を挟んだ北西側には正泉寺遺跡があります。

堂垣外遺跡では三彩陶器・円面硯・銅製帯金具、馬具等が出土し

ており、恒川官衙遺跡との関連が想定されています。五郎田遺跡は、堂垣外遺跡の対岸、恒川官衙遺跡と同じ土曾川左岸に位置し、さらに周辺は古代の官道である東山道の通過候補地にあたりと推定されています。五郎田遺跡の調査は、恒川官衙遺跡を中心とした、古代の飯田・下伊那地域の様相を考えるうえで非常に重要なものです。



五郎田遺跡の周辺遺跡

3. みどころ (裏面 竪穴建物跡配置模式図参照)

弥生時代：遺構は確認できませんが、中期後半から後期の土器が遺物包含層から出土しています。

古墳時代：竪穴建物跡を6軒検出しています。SB313は方形で、長軸約7.8m×短軸約6.8mです。大形のカマドが良好な状態で見つかりました。袖の長さは約1.5m、幅は90～80cmあり、支脚や構築材が残っていました。古墳時代後期の土器がまとまって出土したほか、平玉も出土しました。SB316は大形の竪穴建物跡で、一辺8.3m以上を計る方形のものです。

奈良・平安時代：竪穴建物跡を9軒検出しています。そのうち5軒からカマドが見つかりました。SB302とSB303は、五郎田遺跡の中で一番新しい時期(平安時代後半)の竪穴建物跡で、柱穴もみつかりました。SB302からは円面硯と灯明皿が出土しました。そのほかの竪穴建物跡は、奈良時代から平安時代前半のもので、カマド以外の施設は確認できません。土師器や須恵器、灰釉陶器等の破片が多く出土していますが、完形品は非常に少ないです。

長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 住所：飯田市北方297-5 電話番号：0265-49-0736

メールアドレス：maibun@naganobunka.or.jp

H P アドレス：https://naganomaibun.or.jp/

担当：村井・大泰司・和田

支援業務：(株)シン技術コンサル

中西・菊池・小林

※現地説明会の様子を当センターホームページやSNS等に掲載することがありますので、ご承知ください。



SB311 竪穴建物跡全景



SB311 カマド検出状況



SB308 竪穴建物跡全景



SB308 須恵器蓋出土状況



SB303 竪穴建物跡全景



SB303 カマド検出状況



SB313 平玉出土状況



SB313 カマドと遺物の出土状況



SB313 土器出土状況



SB302 出土の灯明皿



遺物包含層出土の弥生土器

竪穴建物跡配置模式図(縮尺約 1/200)